## １．団体の設立趣旨

つながりあう社会へ

私たちは今、高度な効率化・情報化がすすんだ、便利な社会に暮らしています。
しかしその裏で、人と人の繋がりは薄れ、深い孤独感が蔓延し、 地域コミュニティが崩壊するなど、 社会の問題も深刻化しています。
世界では、これまで貧しいと言われていた国々が急激に発展し、豊かさを享受する人が増える一方で、開発による環境破壊、貧困格差、エネルギー・資源をめぐる問題など、多くの深刻な事態も表面化しています。
そんな中起きた東日本大震災と原発事故は、私たちにコミュニティの大切さとその危機を痛感させました。
今、こうした数多の問題を抱える社会を生きていくためには、多様な情報や選択肢から、自ら考え、選び、行動する力を一人一人が身につけることが肝要です。しかし過剰な情報や便利すぎる社会はその力を奪い、生きる力を弱めています。

ゆいツール開発工房（ラボ）のメンバーは、環境省の体験的な学びの場づくりに６年以上携わってきました。その現場経験の中で、市民の手による課題解決の必要性と、コミュニケーションによる学び合いの可能性を見い出しました。
人と人の関わり合いや繋がり合いが、社会の中で損なわれつつある「絆」や「生きる力」「生きる知恵」を取り戻す鍵ではないかと考えます。
そこで、「NPO 法人ゆいツール開発工房」を設立し、人と人の結びつきを生み出す道具やしくみ（ゆいツール）を開発することで、社会の中にコミュニケーションや学びの機会を増やし、地域でさまざまな人たちがともに学び合う基盤づくり、持続的に活動展開できる環境づくりなどをサポートし、持続可能でいきいきとした地域コミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

## ２．団体の目的と主な事業

ゆいツール開発工房（ラボ）は、広く日本や世界の人々に対して、ESD（持続発展教育）プログラム開発をはじめとした教育活動事業等を行うことで、社会の中に世代や立場を越えたコミュニケーションや学び合いの機会を創出し、地域コミュニティの持つ課題（環境破壊、少子高齢化、地域文化の衰退など）の解決や、持続可能な社会構築に寄与することを目的とする。

(1) ESD（持続発展教育）に関わるプログラム開発事業
・ツールの開発（さまざまな人を対象とした環境教育のための教材開発）
・展示パネルの製作
(2) ESD（持続発展教育）に関わる人材育成事業
・指導者育成（環境教育リーダー、インタープリター等の育成）
(3) ESD（持続発展教育）の社会展開のための事業
・参加型プログラムの実施（開発したツールを使った参加型ワークショップの実施）
(4) 教育活動、地域活性化事業等を行う他の団体との情報交換及びネットワークの構築事業

## ３．団体の役員

ゆいツール開発工房（ラボ）は、以下の役員によって運営されている。

| | | |
|---|---|---|
| 理事長 | 山本　かおり | |
| 副理事長 | 岡田　厚子 | |
| 理事 | 松原　裕子 | 有限会社イリュージョンミル代表取締役 |
| 理事 | 松原　雅裕 | デジタリウムプロジェクツ！主宰 |
| 理事 | 森　高一 | |
| 監事 | 小山　庄三 | |

## ４．会計報告

**特定非営利活動法人ゆいツール開発工房（ラボ）**

賃借対照表（2012 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

| （資産の部） | | （正味財産の部） | |
|---|---|---|---|
| 預金 | 202,244 | 一般正味財産 | 202,244 |
| 資産合計 | 202,244 | 正味財産合計 | 202,244 |

## 2012年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書
## 2012年4月1日から2013年3月31日まで

（単位：円）

| 科　目 | 金　額 | | |
|---|---|---|---|
| Ⅰ 経常収益 | | | |
| 1 会費・入会金収入 | | | |
| 会費・入会金収入 | | | |
| 入会金収入（正会員） | 110,000 | | |
| 会費収入（賛助会員） | 25,000 | 135,000 | |
| 2 事業収益 | | | |
| ①ESD に関わるプログラム開発事業及び②ESD に関わる人材育成事業 | 2,426,210 | | |
| ③ESD の社会展開のための事業 | 47,220 | 2,473,430 | |
| 3 寄付金収入 | | | |
| 寄付金 | 15,000 | 15,000 | |
| 4 その他収益 | | | |
| 利息 | 33 | | |
| 雑収入 | 0 | 33 | |
| 経常収益計 | | | 2,623,463 |
| Ⅱ 経常費用 | | | |
| ①ESD に関わるプログラム開発事業及び②ESD に関わる人材育成事業 | | | |
| （1）人件費 | 548,000 | | |
| （2）その他経費 | 1,929,517 | 2,477,517 | |
| ③ESD の社会展開のための事業 | | | |
| （1）人件費 | 45,000 | | |
| （2）その他経費 | 2,400 | 47,400 | |
| 雑費 | 62,715 | 62,715 | |
| 経常費用計 | | | 2,587,632 |
| 当期経常利益額 | | | 35,831 |
| 当期正味財産増減額 | | | 35,831 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 202,244 |
| 次期繰越正味財産額 | | | 238,075 |

### 期末賃借対照表（2013 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

| （資産の部） | | （負債の部） | |
|---|---|---|---|
| 預金 | 255,075 | 借入金 | 100,000 |
| 未収金 | 83,000 | （正味財産の部） | |
| | | 一般正味財産 | 238,075 |
| 資産合計 | 338,075 | 負債・正味財産合計 | 338,075 |

期末貸借対照表脚注

・未収金 83,000 円のうち、63,000 円は ESD プログラム開発事業に関わるもので、4 月 26 日に回収済みである。20,000 円は正会員会費に関わるもので、4 月 8 日・15 日に各 10,000 円ずつ回収済みである。

## ５．活動報告

### １．スマトラ島の損林保全をテーマとした ESD プログラムの開発～エコツーリズムの発展及び先住民・地域住民への環境教育～

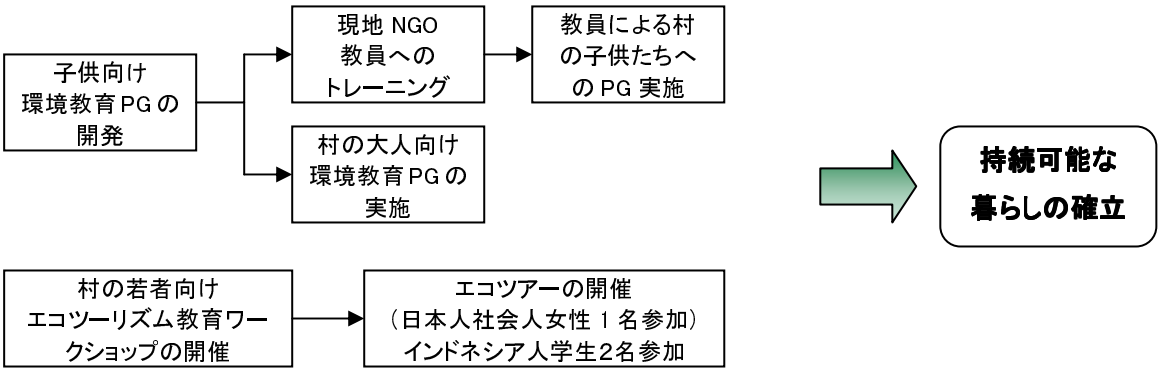
地球環境基金の助成を受けて、インドネシア・スマトラ島での活動を以下のとおり行った。詳しい報告については、別紙のとおり。

◆ 現地の各協力団体に専門的アドバイスを受けながら、村の子供向け ESD プログラムを開発した。その後、そのプログラムの使い方を現地 NGO が雇用する教員等へ伝授した。

◆ 村人向けに、開発した ESD プログラムの体験ワークショップを実施した。

◆ トレーニングをした現地の NGO が雇用する教員等が、村の子供たちへプログラムを実施した。

◆ 12 月にエコツアーを開催した。（結果的に日本の学生の参加はゼロになったが、社会人 1 名が参加。インドネシア人の学生 2 名も、ツアーの一部に参加した）




### ２．幼児向け環境教育プログラムの開発及び実施（8 月、11 月　計三回）＜写真１、２＞

○依頼元：クレシュ新横浜（0～2 歳児対象の民間の保育所）

○担当：岡田厚子

○日時：①2012 年 8 月 22 日（水）10：00～10：30

②　　11 月 8 日（木）10：00～10：30

③　　11 月 15 日（木）10：30～11：00

○対象：主に 2～3 歳の園児

○内容：①「カタツムリ編」／参加者数：約 20 人

縁で飼育しているカタツムリについて、作成したイラストカードでカタツムリの身体の仕組みについて学ぶプログラムを実施。自分と同じ様に目や口や身体があることを伝え、生き物・いのちへの興味や思いやりの気持ちを育むきっかけを作った。また、園で継続して使える生き物カードの教具（モンテッソーリ教育の絵合わせのカード）を先生方の協力のもと製作し、子どもたちに紹介した。

②「音あそび編～耳をすまそう～」／参加者数：約 20 人

子どもに音（生き物の声、風の音などの環境音）だけを聴かせて、何の音かを考えるプログラムを実施し、聴覚に集中して感覚を研ぎ澄ましたり、音に意識を向けたりする「聴くちから」の練習を行った。

③「遠足編～音をつくろう～」／参加者数：8 人（一番年上のクラスのみ）
園のミニ遠足でどんぐりを拾いながら歩いたあと、小さな手作りケースに自分でどんぐりを入れ、それを振って音を鳴らして聴くという体験プログラムを行った。最後にはみんなで楽器のように鳴らして「どんぐりころころ」の歌を合唱した。

○ふりかえり

・幼児がどこまで体験プログラムに関心を持ち、理解できるのか、探りながらの実施だったが、毎回予想以上に反応が良く、よく理解できていると感じた(特に 2～3 歳において)。

・カタツムリの飼育や、遠足コースの下見など、園にもご協力いただけたので、やりやすかった。またカタツムリ編では、先生方に絵を描いてもらい、教具を作成した。飼育や園で使える教具といった、一度きりの講座で終わらずに継続していける工夫があると、より学習の効果があると思う。

・音あそび編では、ほとんど見せる物もなく動きもない地味なプログラムにも拘わらず、子どもたちがとても集中していて園長も驚いていた。「音」をテーマに次の遠足編もおこなったが、こちらはもう少し工夫（子どもたちが探究できる体験）があっても良かったかもしれない。

・幼児の興味や理解度を学べる貴重な機会にもなるので、今後も続けていきたい。

## ３．ひょうご環境創造協会でのプログラムのプレゼン（8 月）

○依頼元：ひょうご環境創造協会

○担当：山本かおり

○日程：2012 年 8 月 23 日（木）10：00～16：00／山本

○内容：ゆいツールが開発した「エコのタネさがし」（エコのタネをさがそう、のバージョンアップ版）のプレゼンと、ひょうご環境創造協会が作ろうとしているほかのプログラムへのアドバイスを行った。

## ４．『＆EARTH 教室活動』2 周年報告会へ応援団としての参加（10 月）

○依頼元：NPO 法人ビーグッド・カフェ

○担当：山本かおり

○日時：2012年10月23日（火）17：00～19：00

○場所：港区立エコプラザ

○内容：三井不動産レジデンシャルが、CSR として取り組んできた『＆EARTH 教室活動』の報告をするにあたって、何人かの環境教育関係者などが応援団として呼ばれて、活動へのコメントを行った。ゲストはゆいツールの他、白井貴子氏、全田和也氏（NPO 法人ごかんたいそう）、岡本郁子氏（「お母さん」を学ぼう会）。
後日、ソトコト 2012 年 12 月号にイベントの様子が掲載された。

## ５．神奈川県鶴見区の生涯学級での講座（11 月）　＜写真３、４＞

○依頼元：鶴見区生涯学級「あかるい未来」

○担当：岡田厚子

○日時：2012 年 11 月 13 日（火）10：00～12：00

○場所：鶴見中央コミュニティハウス（シークレイン内）
○参加者：鶴見区在住の子育て中の女性など 17 名
○内容：鶴見区生涯学級の全六回の講座「あかるい未来」の第四回講座を担当する形で実施。生物多様性をテーマに、楽しい参加型のオリジナルプログラムの体験を通して、大人（お母さん）自身に生き物への関心をもってもらい、子どもたちが身近な自然に親しむことの大切さに気付いてもらえるように組み立てた参加型講座をおこなった。
○ふりかえり：
参加者は、「生物多様性って何？！」というような本当に普通の女性たちだったが、体験プログラムを通して、徐々に生き物についての認識や興味を深めていく様子がわかり、手応えを感じた。これから子どもと一緒にもっと生き物について学びたい、といった感想を持ってくれた方もいた。子どもたちの生き物離れ・自然離れの状況を改善するには、まず保護者の意識を変えていくことの重要性を感じた。また、「いきもの・いろいろ」のプログラムは、もともとあまり生き物に関心がない人でも巻き込めることがわかり、可能性を感じた。

## ６．東京環境工科専門学校「地球温暖化を考える」授業（1 年生向け 2 コマ）（1 月）

＜写真５、６＞

○担当：山本かおり、宮腰義仁
○日時：2013 年 1 月 25 日 13 時 00 分～14 時 30 分、14 時 40 分～16 時 10 分
○参加者：６４名程度
○内容：1 年生に対して、1 現目に地球温暖化について興味を持ってもらうきっかけとするために、グループでのプログラム体験を行った 2 限目は、仕事と温暖化のつながりを意識するために、ワークショップで実施した。

【1 限目】
・ “温暖化のメカニズム”「かくかくしかじかおんだんか」
・ “自分の暮らしと地球温暖化のつながりに気づこう”プログラム体験「エコのタネをみつけよう」

【2 限目】
・ “仕事とのつながり”プログラム体験＆ワークショップ「ひと×しごと＋おんだんか」

○学生の感想（抜粋）：
・「今日のお話を聞いて、地球温暖化について改めて考えさせられました。将来どんな職に就いても、温暖化の原因・影響については考えていかなければならないと思いました」
・「地球温暖化のシステムは中学校で簡単に学びましたが、自分たちの生活が影響していると言われても、あまり実感がありませんでした。今回の講義は、部屋にある家電や自分たちが経験した仕事から、どれだけ関係があるかなど具体的に挙げていったので、温暖化に対して意識を持ちやすかったです。また、クイズなどで、あまりよく知らない職業の方がどういう取り組みをしているかわかったので勉強になりました」
・「地球温暖化についてディスカッションしながら授業をするというシステムはとても面白く、楽しかったです。インタープリテーションを受けるお客さんの気持ちになりました。これか

ら私たちはインタープリテーションをする立場になるので、行う立場でのポイントを知りたいと思いました」

○ふりかえり：

昨年度同様、温暖化のメカニズムや原因を押えた後、「しごとプログラム」を行った。学生は今までなんらかのアルバイト・仕事を経験している上、卒業後はほとんどの学生が就職をするので、「しごと」が小学生～高校生に比べて身近であり、自分たちが専門学校で学んでいる環境問題が「しごと」の中にもついて回ることに、このプログラムで初めて気づかされる学生もいた。

## ７．JANNI の講座前に中学生向けにプログラム実施（2 月）＜写真７、８＞

○依頼元：日本インドネシア NGO ネットワーク（JANNI）

○担当：山本、ボランティア２名（金子真実、田中愛）

○日時：2013 年 2 月 2 日(土)　13:10～13:45

○場所：GEOC（渋谷区）

○参加者：都内の私立中学校の女性生徒 6 名

○内容：日本インドネシア NGO ネットワーク（JANNI）の大人向け講座の前に、NGO の活動を知るために課外活動で JANNI を訪れた中学生に、ゆいツールの開発したプログラムを体験してもらい、熱帯林について考えてもらう機会にした。

○ふりかえり

行ったことのない熱帯林の生き物がテーマだったが、「生物多様性」についてプログラムを通して少しは理解してもらえた様子だった。森が「アブラヤシプランテーション」や「ゴム園」ばかりになってしまうと、生き物の種類はどうなるかな？と問いかけると、「減るだろう」と答えていたので、スマトラの森の中に住んでいる人たちよりさすがに教育を受けた子どもたちだ、と妙なところで感心した。

## ８．環境エネルギー館でプログラムを実施（2 月）＜写真９、１０＞

○依頼元：東京ガスワンダーシップ環境エネルギー館

○担当：／山本、ボランティア（森耶々美）

○日時：2013 年 2 月 17 日（土）13：00～13：40、14：00～14：40

○参加者：環境エネルギー館を訪れた親子　30 組程度

○内容：環境エネルギー館を訪れた親子向けに、ゆいツールのオリジナルプログラム「いきもの・いろいろ」日本版、熱帯林版を実施した。

○ふりかえり：

・１回目のプログラムは「いきもの・いろいろ～日本版」を行った。幼児も含むかなり低年齢の子どもたちと、その親御さんたちと一緒に考えた。「田んぼにいる生き物はなにかな？」「この小さな魚はめだかっていうんだよ」など、日本の自然の風景イラストの上に生き物を置いていったり、生き物カルタをしたり、楽しく生き物について学ぶことができた。

・２回目は、「いきもの・いろいろ～熱帯林」を行った。幸い小学生以上の子どもたちが多く参加してくれたので、親子一緒におこなった。熱帯林を知らない子も多かったが、暑いとこ

ろに暮らしている生き物、とイメージしてもらった。生き物のカルタを使って学んだあと、「どの生き物がどの生き物に食べられているかな？」など生き物の繋がりを考え、クリップとひもを使って生き物カードをつないだ。小さな子どもたちの作業なので、最後にはひもがこんがらがってしまった。

写真１

写真２

写真３

写真４

写真５

写真６

写真７

写真８

写真９

写真１０

NPO 法人ゆいツール開発工房（ラボ）
〒155-0032
東京都世田谷区代沢 2－19－12
http://yui-tool.jimdo.com/
連絡先：yuitool@gmail.com